

## X-Mate 制約事項

### ○ Gnome デスクトップでご利用の際の制約事項

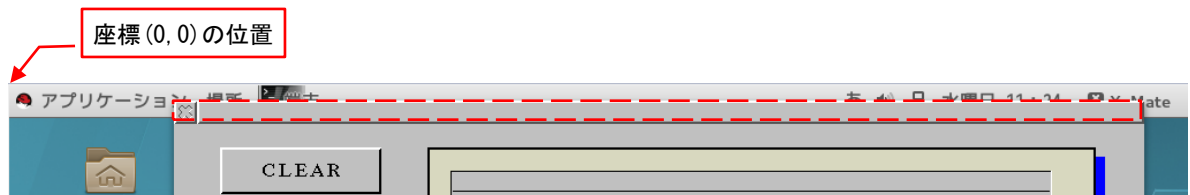
Gnome デスクトップで X-Mate 画面を表示させる際に制約事項があります。

画面上部に表示されている、メニューバー部分で X-Mate 画面と重なった場合に、操作不能に陥る現象がありますので、ご注意ください。



Gnome デスクトップでは、アプリケーションの表示エリアはメニューバーより下にある必要がありますが、画面の左上座標(0,0)はメニューバーの左上になっています。

X-Mate でメニューバーと重なる位置に表示させると、見た目は下図のように重なって表示されていますが、Gnome デスクトップのメニュー操作となってしまう点線の部分にある X-Mate の画面操作は不可能となります。



X-Mate の画面は、Gnome デスクトップのメニューバーに重ならない位置に配置願います。

【解決策】解決方法として幾つか紹介します。

1. 初期表示位置に注意する方法。

→ Y座標を 30 以上(Gnome デスクトップのメニューバーに重ならない位置)にパネルオープンする。

2. パネル位置補正処理を行う方法。

→ パネル移動(変形)イベントでパネル位置補正を実施

コーディング例

```
// パネル OPEN 処理

Ktcore *coreA = TKopen( . . . );
if( coreA != NULL )
{
    TKnotify( coreA, KEVNT, func );           // パネルイベント処理登録
    :
}

// パネルイベント処理
int func( Ktcore *core, int type, Ktconfig *info )
{
    switch( type )
    {
        case CONFIG:
            if( info->wy < 30 )                // Y座標が隠れている？
            {                                  // パネル位置補正
                XMoveWindow( core->dis, core->kit, info->wx, 30 );
            }
            break;
    }
    return(0);
}
```

以上